

2024年度の大分県経済の見通し 生産の持ち直しと所得環境の改善から、 プラス成長を見込む

【要 旨】

- 2023年度の大分県の実質経済成長率は▲0.2%と、わずかなマイナス成長になる見通しである。
- 上期は、生産活動、住宅投資は弱含んだ。また、個人消費は横ばい圏内の推移となり、有効求人倍率の上昇に一服感がみられた。一方、公共投資は前年を上回り、設備投資は前年度を大幅に上回った。下期は、生産活動と個人消費は力強さを欠き、住宅投資は低下基調が続く見通し。一方、有効求人倍率は高水準で推移し、公共投資も底堅さを維持すると見られる。2023年度の県内経済は、低調な生産活動による純移輸出等が重しとなりマイナス成長となるだろう。
- 2024年度の大分県の実質経済成長率は+0.8%と、プラス成長を見込む。
- 生産活動は2023年度を上回り、個人消費は緩やかに持ち直すと予想する。公共投資は2023年度比でやや増加する見通し。また、有効求人倍率も高水準を維持するとみられる。一方で、住宅投資は2023年度を下回り、設備投資は前年度の反動から低下する見通し。2024年度の県内経済は、海外景気の底打ちによる生産活動の持ち直しや所得環境の改善から、プラス成長に回帰する見通し。ただし前年の設備投資の反動減が、成長幅を押し下げるだろう。

図表 2023・2024年度の経済成長率見通し（実質ベース、前年度比増減率）

	2020年度 実 績	2021年度 推 計	2022年度 推 計	2023年度 予 測	2024年度 予 測
実質経済成長率	▲4.0	0.5	4.2	▲0.2	0.8
民間最終消費支出（個人消費）	▲6.7	0.6	1.0	0.1	0.5
民間住宅投資	▲3.6	0.1	0.9	▲4.1	▲1.7
民間企業設備投資	▲4.3	9.0	0.9	20.6	▲13.8
政府最終消費支出	1.6	3.3	0.7	0.4	0.5
公的総固定資本形成（公共投資）	2.4	3.1	▲8.3	5.7	0.8
鉱工業生産指数	89.3	89.1	96.1	92.4	92.9
消費者物価指数（生鮮食品を除く）	100.0	99.5	101.9	104.8	107.1
有効求人倍率	1.12	1.21	1.40	1.36	1.42

注）鉱工業生産指数、消費者物価指数、有効求人倍率は年度平均値で、2020・2021・2022年度は実績値、2023・2024年度は当研究所予測値。